

●東大の敷居は高いか？

一般社会から見ると、東大の敷居は非常に高い。「是非研究室にいらして下さい」と言う
と「えっ？入れるんですか？」という反応をもらうことが結構多い。特に日本人の多くは
東大をひどく特別視している。以前はさほど感じなかったが、東大に転職してから、そう
感じる機会が増えた。

東大の敷居の高さは、主に学部入学が極めて困難であるイメージから生まれているらし
い。受験雑誌を見ても、「最難関」や「最高峰」といった言葉が並んでいる。確かに（推薦
入試は導入されることになったが）、基本的に各科目オールマイティに優秀な学生が試験の
みで入学している。18歳前後の若者にとって、東大とは確かに簡単には入れない超難関校
である。

では、東大大学院の敷居は高いのであろうか？この質問に答えるのは難しい。私の印象
では、学部の敷居と大学院の敷居は「違う高さ」である。走り高跳びのバーの高さと棒高
跳びのそれを比べよと言われていたようなものである。また、理系と文系でも状況は相当
異なる。それどころか、大学院の場合、社会経験を持ってから受験する人も少なくない。

高校時代、私の成績はあまりよくなかった。得意科目と不得意科目の差が激しい私にと
って国公立大学への進学は非常に高い敷居だった。私立の難関校は受験したが、国公立大
学を受験するなど考えたこともなかった。結果として私は、偏差値があまり高くない（し
かし専門性が高く、教員と学生の距離が近く、留学のチャンスに恵まれた、非常によい）
小さな文系の私立大学に進学した。

ところが私は、得意科目（主として語学と専門科目）のみで受験できる大学院の敷居を、
それほど高く感じなかった。私自身は、大学院修士課程進学の際に、駒場に挑戦して不合
格となっている。しかし、学部の時とは異なり、受験すること自体を選択肢から排除する
ほどの敷居の高さは感じなかった。東大大学院は私の選択肢に入っていたのである。

実際、東大のある大学院における、内部進学生と外部からの進学生と留学生の割合はそ
れぞれ4割弱、4割強、2割弱程度である。文系大学院全体の在校生を見ても、（留学生の
割合はもっと高いかもしれないが）大差ないというのが実感である。このように、東大の
大学院は高い専門性を追求したいという外部からの進学生と海外からの留学生にとてもオ
ープンなのである。

2013年9月25日 記